

アニメの聖地本別町プロジェクト

佐藤歩夢 大和田海翔 佐藤功武

概要

本別町に訪れる観光客を増やし、ゆくゆくは本別町をアニメの聖地にする。

1. はじめに

本別町に訪れる観光客が増加していないというファクトのもと、何かを使って解決できないかと考えた結果、人気のあるアニメを使って解決しようと考えた。もともとアニメが好きということでより気合を入れて取り組んだ。

2. 課題について

本別町の観光客が増加していないということに着目した。⁽¹⁾

3. 現状分析について

本別の観光客数を調べてみると、観光客は増えている。しかし、観光客の訪れる場所のほとんどが道の駅を占めていた。道の駅役割や観光が目的の場所ではないことから観光客数から外して、観光客数を調べてみると観光客は減っているのが分かった。

[表1]

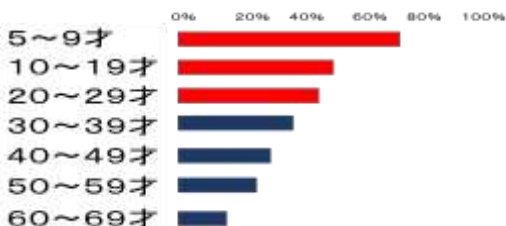
平成29年度 観光客数
685,138人
平成30年度 観光客数
687,128人
令和元年度 観光客数
704,471人

2万人増

[表1：本別町の観光客数（H29～R元）]

よって、本別町の観光客数は減っていると結論づけた。また、アニメについては、日本国民の約3割が見ており、大変人気のあるコンテンツであることがわかる。[表2、グラフ]

若い世代ほどアニメを見てる！



[表2：アニメを見ている世代]

4. 仮説について

アニメに関する名物を本別で作れば観光客が増加するのではないかと考えた。

アニメ視聴者数と比率



5. 解決策[仮説]アニメ視聴者数と比率]

解決案として、コミックマーケット、アニメとのコラボ、企業誘致などがあげられた。今回はアニメとのコラボについて深堀していく。現段階で考えているのは、豆まかナイトと鬼滅の刃のコラボ、ウマ娘と十勝のばんえい競馬のコラボである。これを機に観光客が増加し、本別もアニメの聖地になるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

- ・物事を多角的に考えることを学んだ。
- ・議会での発表を契機として、町企画振興課で、豆まかナイトとのコラボなど検討されている。

[課題]

解決策は他力本願のような形になるので自分たちでできることを考える必要があるが、資金の問題やアニメを使うにあたっての許可が必要である。

7. まとめ

活動を通して、別の課題に取り組む班ができたりするなど、うまくいかないこともあった。話し合いの必要性、報連相の大切さを学んだ。議会での発表をしたことは非常によい経験になった。今後の活動は考えていないが楽しい活動だった。今回、協力してくれた三室さん、佐々木さんご協力感謝いたします。

参考文献

- (1) 本別町町勢要覧：2020年度観光について

アニメの聖地本別町プロジェクト

佐藤功武 佐藤歩夢 大和田海翔

概要

本別町の観光客数に着目し、本別町をアニメの聖地にすることで、その課題を解決する。

1. はじめに

アニメを使って町の課題を解決したいという思いのもと、本別町の観光客の数が増加していないという仮定を設定し、解決できないかと考えた。

2. 課題について

観光客の数が増加していないことに着目した。⁽¹⁾

3. 現状分析について

本別町の観光客の数を、調べてみたところ、観光客の数は増えていたが、道の駅の観光客の数が、特に、多いことが分かった。道の駅は本来、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能という目的で設置されているため、道の駅の観光客の数を除くと、観光客の数は増えていないことがわかった。

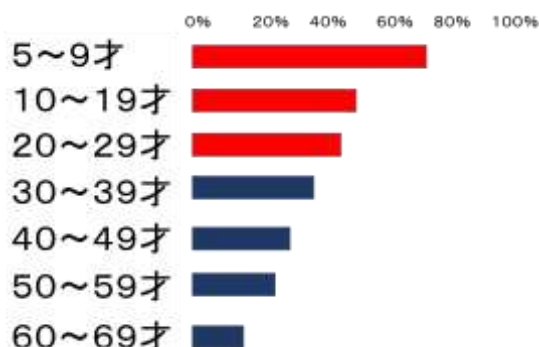
また、アニメは国内で約3割の人が見ていて、若者世代のほとんどが見ていることが分かった。

[グラフ1]

アニメ視聴者数と比率



[グラフ1:・年齢帯内のアニメの視聴者の比率]



[グラフ2: アニメを見ている世代]

4. 仮説について

アニメに関する名物を本別で作れば観光客の数

が増加するのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決案として、アニメとのコラボ、コミックマーケットの開催、企業誘致という案がでた。今回はアニメとのコラボについて深堀していく。現段階で考えているのは、豆まかナイトと鬼滅の刃のコラボ、ウマ娘と十勝のばんえい競馬のコラボである。これを機に観光客が増加し、本別もアニメの聖地になるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

- ・解決策を探す過程で何が可能か、何が喜ばれるのかと、様々な視点で考えることができた。
- ・豆まかナイトとコラボとの案が、町企画振興課で検討されている。

[課題]

以下のような課題があると考えた。

アニメ使用の許可、資金面、コラボの形態、赤字とならないための予算の算出

活動をとおして、高校生でできることを考える必要があり、また、デメリットの側面も含めて検討する必要がある。

7. まとめ

班員との解釈の違いにより、別の班が立ち上がったことを反省する。今後、本別町企画振興課で案が検討され、コラボとう形になれば何か役に立ちたいと考えている。その場合は課題にあることを意識してやっていきたい。

最後に、今回、携わっていただいた、佐々木さん、三室さん、藤井さん、本当にありがとうございました。

参考文献

- (1) 本別町町勢要覧: 2020 年度観光について

アニメの聖地本別町プロジェクト

大和田海翔 佐藤功武 佐藤歩夢

概要

本別町の観光客数が増加していないため、本別町をアニメの聖地にすることでその課題を解決する。

1. はじめに

本別町の観光客の数が増えていないという課題を、アニメを使い解決することとした。

2. 課題について

本別町の観光客の数が増えていない。[表]⁽¹⁾

3. 現状分析について

本別町の観光客数を調べてみたところ、観光客の数は増えていたが、道の駅の観光客の数が、特に多かった。道の駅は本来、休憩機能、情報発信機能、地域連携機能という目的のものであるため、観光地とはいえないと考え、観光客の数は増えていないと結論づけた。

また、アニメは国内で約3割の人が見ており、若者世代のほとんどが見ていることが分かった。
[グラフ]

道の駅と本別公園の観光客数

	道の駅	本別公園
H29	342,883	138,854
H30	341,384	140,012
R1	364,920	134,715

<https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/web/town/img/tyouseiyoran2020.pdf>

[表：本別町の観光客数（H29～R元）]

アニメ視聴者数と比率



[グラフ：アニメ視聴者数と比率]

4. 仮説について

アニメに関することを本別町で行えば観光客の数が増加するのではないかな。

5. 解決策について

解決策として、アニメとのコラボ、コミックマーケットの開催、企業誘致の案がでた。今回はアニメとのコラボについて考えていく。現段階で考えているのは、豆まかナイトと鬼滅の刃のコラボ、ウマ娘とばん馬を育てている牧場、とのコラボである。これを機に観光客が増加し、本別もアニメの聖地になるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

これといった成果はないが、豆まかナイトとのコラボが計画されている。

[課題]

次のような問題があると考えている。

- ・使用の許可、資金、計画

7. まとめ

方向性の違いで別な班が立ち上がり、うまく進まないことがあった。今後のコラボに期待したい。

多くの人に向けて発表できたことはとてもよい経験だった。今回お世話になった三室さん、佐々木さん、藤井さん、ご協力感謝します。

参考文献

- (1) 本別町町勢要覧：2020年度観光について
- (2) <https://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/web/town/img/tyouseiyoran2020.pdf>